

第1回 ひきこもり支援協議会 議事録 (主要な質疑応答及び結果)

開 催 日 時	令和3年7月15日（金曜日） 午後7時00分～午後8時40分
会 場	豊島区役所 会議室507～509
出 席 者	【委 員】文京学院大学人間学部人間福祉学科 教授 中島 修、 東京学芸大学教育心理学講座 准教授 福井 里江、 NPO KHJ全国ひきこもり家族会連合会 事務局長 上田 理香、 NPOワーカーズコープ事業推進本部 事務局長 牧野 斉子、 櫻和メンタルクリニック 院長 山野 かおる、 池袋市民法律事務所 所長 釜井 英法、 高齢者総合相談センター（包括） ふくろうの杜センター長 深澤 雅世、 第6地区青少年育成委員会 会長 根岸 幸子、 長崎第一地区 民生委員・児童委員 副会長 山本 ナミエ、 小杉 順二、小暮 和美、池袋保健所健康推進課 課長補佐 松川 君子、 豊島区民社会福祉協議会 地域相談支援課長 田中 慎吾、 厚生労働省 大臣官房総務課広報室長（社会・援護局併任） 野崎 伸一、 東京都 福祉保健局生活福祉部地域福祉課生活支援担当長課長 小澤 耕平、 豊島区 保健福祉部長 田中 真理子 【事務局】豊島区 自立促進担当課長 今村 宏美
傍 聴 者	2名
会 議 次 第	開会 1 挨拶（高際副区長） 議題 2 ひきこもりに係る支援の現状について 3 各委員からのご意見等 ・ ひきこもり支援専用ホームページについて ・ 窓口及びホームページの名称 4 今後のスケジュールについて 5 その他 閉会
資 料	・ 資料 1-1 ひきこもり支援協議会設置要綱 ・ 資料 1-2 委員名簿 ・ 資料 1-3 豊島区のひきこもり支援 ・ 資料 1-4 豊島区におけるひきこもりに係る支援の取り組み ・ 資料 1-5 ひきこもりホームページについて ・ 資料 1-6 ホームページタイトルについて ・ 資料 1-7 今後のスケジュール

	・ 豊島区未来戦略推進プラン 2021 将来像編 ・ (参考) 委員の皆様からの意見 ・ 座席表
--	--

主要な会議内容及び質疑応答について	
開 会	
1. 挨拶 高際副区長 (会 長) ひきこもり支援は当事者の方がとても重要であり、そこに軸足をしっかり置き、会議を進めていくことが重要である。	
議 事	
2 ひきこもりに係る支援の現状について (事務局)「豊島区来戦略推進プラン 2021 将来像編」にて豊島区の特徴を説明。 ・ P 5 豊島区の人口と人口密度の推移について 人口は令和 3 年に減少に転じ、令和 3 年 1 月時点で 287,300 人。人口密度は令和 3 年 1 月現在 220.8 人/ha、全国一の人口密度の状況。 ・ P 6 世帯類型別の構成比について 平成 28 年度、全世帯に占める単独世帯の割合は 63%。23 区では新宿に次ぐ高い数字である。 年齢別の豊島区人口推移について。一番大きな動きがある世代は黒い太線の 40 歳～64 歳で、令和 3 年 1 月時点で人口は 92,030 人、割合は 35.3%。 資料 1-3 豊島区のひきこもり支援について 昨年調査した庁内関係 10 課及び関係 2 団体の窓口にてひきこもりの相談があった件数を調査。 ・ 全件数 225 件。 ・ 「年齢層」については、40 代・50 代で全体の約半数を占める。 ・ 「最初に窓口相談に来た件数」本人 46.2%。一番相談しにくいであろう“本人”が窓口相談に来ていることより、関係課の窓口環境が一定程度、整っていることが示されていると推測する。 「ひきこもり期間」は 20 年以上が 25.1%と一番多い。 ・ 「相談の主訴」を見ると「とにかく助けてほしい」という切実な相談が 55.6%で、切迫した状況になって初めて窓口に来ている状況。 資料 1-4 「豊島区におけるひきこもりに係る支援の取り組み」 豊島区のひきこもり相談窓口については、窓口の間口を広く構え受け止め、どの窓口でも相談してもらい、関係課が連携しながら対応する体制を整えている。 令和 2 年 4 月に福祉包括化推進員を配置した。関係 10 課の係長を自立促進担当課長のもと	

自立促進係長として人事発令し、複雑化・複合化する事案について情報を共有する体制を整えた。

令和2年10月～12月にひきこもり支援の実態調査を実施。

令和3年1月、ひきこもり支援の所管を明確化した。これにより、ひきこもりについては自立促進担当課長がひきこもり支援の中心を担うことが決まった。

令和3年2月、ひきこもりに関係する部署の職員向け研修を実施。支援者がひきこもりについて正しく理解して受け止める体制が必要であり、KHJにご協力いただき研修を実施した。

令和3年4月、福祉包括化推進員の配置を強化し、住宅課と教育センターを加えた。

令和3年7月、ひきこもり専用の相談窓口を開設した。これにより、電話、メール、相談でつながった方はアウトリーチでも対応することを開始した。

(会長) 生活困窮者の自立相談支援機関がひきこもりの相談を一定程度受け止めてきて、豊島区はくらし・しごと相談支援センターを社協が受託し、やってきている。これが実績としてあり、7月からひきこもり相談窓口を設置したことで、更に明確になって当事者や家族への重要なメッセージとなっている。

また、豊島区の特徴として単独世帯が大変多いということが資料からもあり、一人暮らしでひきこもりの方をどのようにサポートしていくか、本人が4割も相談に来ているというのも窓口が見える化されている成果であると思う。一方、保健所との連携を中心に窓口を運営しているが、現場が悩んでいるかもしれない。どういうことを助言していけばいいのか、そういうことも含めて議論していければと思う。

3 各委員からのご意見等

- ・ ひきこもり支援専用ホームページについて
- ・ 窓口及びホームページの名称

(事務局) ひきこもり支援専用ホームページタイトルについて、事前にご意見をいただき、「文章が硬すぎる、支援という言葉が多い、支援のページがわかりづらい」という意見が多くあった。頂いたご意見については8月1日までに修正し、ホームページを公開する。その都度改良しながら進めていきたい。また、ホームページのタイトルは、参考資料にもまとめているように、親しみをもってもらえる、また親近感をもっていただけるようなタイトルにしたいと考えている。

(会長) それでは委員の皆様からご意見をいただけたらと思う。

(委員) まず、調査結果であるように、一番感じているのは「とにかく助けてほしい」というのは、それだけ追い詰められて、ようやく声が出せたという印象であるが、助けてほしいと言えたことも事実としてある。

また、SDGsにもあるように誰一人取り残さないという概念は、不登校であれば学校からいじめをなくす、とか誰一人ひきこもりをなくす、というのは非常に怖い言葉である。誰一人取り残さないというメッセージは大事であるが、追い詰められていて、SOSを出せない状況を受け止めることが大事である。

ホームページについては、最初は問題解決ではないと思っている。とにかく話を聞いてほしい、不安なことを話せる窓口、場所、人が必要であると思う。

(会長) ひきこもりを問題視しないということだと思う。本人が安心して今を受け止められる窓口というのは今までの福祉の考え方だと非常に難しいことだと思う。

(委員) 私は20年ひきこもり期間があったが、完全なひきこもりではなく、社会との交流がゼロではなかった。もし、相談窓口があると思ったら早く相談できたと思うので、豊島区で生きづらさを抱えている方に相談の窓口を知ってほしいというのと、その後どうことができるのか、支援してもらえるのかがわかると良い。

(会長) 重要な点である。そういうことをホームページで発信できたら良いと思う。

(委員) 家族だけでどうにかしようと思っていた。私だけでどうにかしようと思っていた。このような窓口が早くわかっていればと思うが、その思いを言っていないのかわからなかった。それによって子供に負担をかけてきたと思う。

(会長) ひきこもりの支援は窓口がわからない、という課題があった。

(委員) ひきこもりにレッテルを張るのではなく、個人の希望によってどう支えていくかということだと思う。ひきこもりは課題解決ではなく、あなたはそのまま良いのだということ、本人が苦しんでいるなら、それをサポートしていこうということだと思う。実態把握し、窓口につながっていない人をなんとか窓口につなげようというのはアプローチとして強いと思うし、窓口のどこに行けばよいのか、窓口に行ったら受け止めてくれるというのがミニマムに必要なことだと思う。ホームページについては、相談のバナーが小さい。もう少しメッセージを伝えることが重要。行政の支援事業の紹介ではなく、当事者の目線に立ち、3年間でホームページを改良していくと良い。調査も個人でデータがあるなら、例えば単身世帯の人がどういう理由で来ているのか等、違いが見えると良い。

(会長) ご意見ありがとうございます。

ここでホームページのタイトルを決めなければいけないが、委員の皆様からご意見を伺いたい。

(副会長) ナナイロというのはLGBTのイメージが強い。ニュートラルな雰囲気が良いのでポノポノが良いのではないかと。雰囲気が柔らかい分、まだホームページのイメージは固いので、ポノポノとの乖離があるが。

(委員) ホームページのタイトルを決めることが大事なのか、窓口のイメージに沿ったタイトルにすることが大事なのか。もし、このページがよりそいホットラインのような砕けた受け止めてくれる雰囲気であったらポノポノでも良かった。

(委員) 私はポノポノを選んだ。言葉が重なりとそれだけで楽しくなる。意味も他者を感じる言葉で、応援するであったり、人と人との関係でありのままの自分を見つける、探すという意味も含めて良いと

思う。

(委員) 私は IPPO が良いと思う。そういう方がどういう経路でつながったかが重要であり、ひきこもりは重要な時間であり、必要である。ただ、次行動しようと思った時のタイトルとして初めの一歩ということで IPPO が良い。

(委員) ポノポノは良いがハワイ語のため、日本語の語感が良いのではないか。IPPO が良いが、一歩踏み出さなければいけないと思われると違うため、一歩でも踏み出し方はいろいろある、ということを伝えた上で、語感は IPPO が良いと思った。

(委員) 私は皆と同じである必要でないという意味で ナナイロ が良いと思う。

(委員) 私は、言葉として耳に最初に入ることから、意味というよりも、皆さんが虹のような気持ちになったら良いと思い、ナナイロを選んだ。

(委員) オハナはデイサービスで同じ名前があり、混同しないためにも違う言葉が良いと思うので、この中では一歩踏み出しましょうという意味でも IPPO が良いと思う。

(委員) ラシクが良いと思う。ただ、当事者の方々はゲームが好きなので「リセット」や大きな木のイメージがあるので「スダチ」など、ストレートな表現でも良いのではないか。

(委員) ラシクが良いと思っていたが、皆さんの意見を聞いて一歩踏み出すことが重要なので、IPPO が良いと思った。

(委員) どれが良いという意見がないので申し訳ないが、この名称で何のホームページなのかがわかるのかと思った。ホームページはわかりやすい方が良い。

(委員) IPPO が良い。先月参加した会で、ラジオを聞いてくれるだけで参加していると捉えていると言っていた。このホームページも、これを見たらそれだけで一歩踏み出しているのだ、ということで IPPO が良いと思った。

(委員) 一歩踏み出さなければいけないと思われないのは大事である。組み合わせとしては、ここが何をする窓口なのかを書き下し、「〇〇のための IPPO」といった表現の方が、いろいろな側面を配慮できるのではという印象を持った。

(委員) ラシクを選んだ。生き方はたくさんあるということを伝えたいのでラシクが良い。
また、社会全体で誰でもこういう状態になり得るので、一番大事なのは、当事者の目線で相談しやすいと感じるものが重要。

(委員) ナナイロを選んだ。日本語の方がしっくりくると思った。

（会長）皆様からの意見をお伺いして、素晴らしかったので、一度お預かりして、まずは仮に名前を付けてスタートし、その後当事者から募集するということもあって良い。タイトルについては会長・副会長で預からせていただきたい。

4 今後のスケジュールについて

（会長）これをもって第1回協議会を終了とする。

5 閉会